

## 61年ぶりの政権交代の時期に勤務して

平成17年度シニア海外ボランティア・農業教育 中川 明

61年続いた国民共和協会 (Asociación Nacional Republicana: 通称コロラド党) に代わって Fernando Lugo が政権を取った 2008 年、その年を挟んで前後 2 年間ずつ計 4 年間、シニア海外ボランティアとしてパラグアイで農業教育の業務に携わる機会を得た。

配属先は San Lorenzo 市にある農牧省農業教育局。管轄する農業学校 (農業高校) を知るために、カウンターパートらと共に主要公私立校数校に宿泊して、授業と施設を見て、教師・生徒と懇談した。農業教育局という学校現場でない勤務先、教師の学歴・能力、技術・情報へのアクセスが容易でない勤務環境を考慮するに、教師向けの研修や技術講習会を開催するより以前に、現有カリキュラムが定めた教授内容を網羅した教科書 (教師用参考書・生徒用自習書) を編纂する方が、パラグアイ全土に散在する農業学校の教育レベルを向上させるのに遥かにインパクトがあると私は考えた。

パラグアイの農牧業について記述した教科書が欲しいという同局幹部職員らの希望、各種マニュアルや技術講習会等を見るに、パラグアイ人自身で教科書執筆に必要な農牧技術・情報を持っているのではないかと推察し、(1) パラグアイ人研究者・技術者の中から各分野執筆のための適任者を探し、(2) 執筆してもらった原稿をグラフや写真を加えて教科書に合った体裁に編集する、(3) 授業担当教師数名に原稿を校閲してもらう、(4) 印刷・製本した教科書を利用した担当教師の研修を開催す、以上 4 点を私の業務の骨格とした。

最初に編纂した「肉牛」教科書は、今から振り返ると内容訂正を要する間違いが何カ所かあるが、叩き台となる最初の教科書を作成するという初期の目的は十分達成されたと思う。最初の任期 2 年間に編集する予定だったもう 1 冊の教科書「乳牛」は、執筆者を入れ替えて現在編集中有である。

2 年間の任期終了時 (2007 年 10 月末) に同局で行った最終報告会で、(1) 同局職員だけでなく公立校校長や教職員も他校および私立校を見学し授業に加わって見よう (他



人の仕事場を見よう)、(2) 優れた運営を行っている私立校を otro mundo (別世界) と片付けずに見習おう、と同局職員や公立校教職員の姿勢に対して警鐘を鳴らした。

2008 年 6 月末に再赴任後間もなく、新政府により農業教育局も幹部人心が一新された。その印象は、着任した局長、局次長、新設の (業務) 調整官 Coordinador técnico とともに、同局勤務経験があるもすべて民間あるいは大学の経験を有することだ。これは先に行った最終報告会での助言事項にも合致するものだ。日程調整や同局内および各校への細かい指示は同調整官が行う。2008 年 11 月には初の試みとして、同局職員を動員して全国に散在する農牧技術教育を行う 120 余校を訪問し、現況把握をおこなった。この評価を基に、公立校間の教員ローテーション、小中学校ではすでに行われている教職員の県単位での研修を実現する方向で努力している。さらに公立各校がより自由な裁量権と予算を持って学校運営に当れるよう、システム改善と校長の運営能力向上を模索している。

従来同局で開かれていた校長会議を各校持ち回りにし当番校はその日のために何か行事を準備する。校長の采配の誉れが高い Yhovy 校 (Canindeyú 県運営) で 2009 年 1 月下旬に試行された。この会議出発に先立ち、私は局長に対して一つの提案を行った。それは今年度の公立校 3 年生の中から本人が希望する成績優秀な生徒を選び、Honduras や Costa Rica の農業大学受験に応募して見ようという提案だ。生徒や教職員の励みになるだけでなく、近隣国の優れた学生との交流および海外の大学で経験した教育プログラムは、一部の私立校の卒業生のように、卒業帰国後に地域の発展や母校運営に力を発揮してくれると期待しているところです。

## 私自身が日本の文化を見直すことになりました

平成 18 年度シニア海外ボランティア・日本文化 土屋 順子



私は、日本文化の紹介、普及ということで、日本料理、茶道を中心に教室を持ち、指導しました。対象は、受講を希望する一般のパラグアイ人でしたが、茶道のクラスには日系の方も参加されていました。年代は 10 代から 60 代まで、男女比は、シェフ対象のクラスがあった料理は男性が多く、茶道は女性だけでした。その中で、多くの出会いと発見と驚きがありました。

一番感謝していることは、茶道に大変興味を持ち、熱心に学び、お茶の良さを理解できる生徒達と出会ったことです。パラグアイはラテンの国です。私の同期のボランティア仲間は最初、「この国の人たちが日本文化を理解することは、無理だよ」と言っていました。でもそれは、杞憂でした。日本でお茶を学ぶ人は、全体のごく一部です。パラグアイでも、その数は少数でした。しかし、彼女たちは日本の文化に強い憧れを持っており、まったく未知のものである茶道を丸ごと会得しようとしていました。作法はかなりきびしく教え、一挙手一投足を何度も何度も直しました。日本から遊びに来て、その様子を見た私の友達が、「随分きびしいのね。びっくりした」と、言ったくらいです。こんなに言われたら、いやになるのでは、との心配もあったのですが、生徒たちは「この方が美しいですね」と積極的でした。楽天的なラテン気質が幸いしたのかもしれないと思うこともあります。そして、6 人が裏千家の初級の許状をとりました。

大きな壁がありました。私のスペイン語能力でした。59 才にして初めて接した言葉は、なかなか頭にしみこまず、最初の頃は、「ごめんなさい、ちゃんと話せなくて」と謝ることしきりでした。でも生徒たちは「いいえ、よく

分かります。」と言ってくれ、「分かるはずなのに！」と、その心遣いにほろっとし、勉強し続ける気力を取り戻したものです。そして 1 年ぐら経った時、その 1 人が「スペイン語がうまくなった。最初の頃は身振り手振りだった」と言ったので、「やっぱり分かっていなかったのだ」と 1 人密かに恥じ入りました。

もう 1 つ良かったと思うことは、日系の方たちと親しく、たくさんお話できたことです。昨年パラグアイは移住 70 周年でしたが、本格的な移住は第 2 次世界大戦後で、子どもの頃移住された一世の方がたくさんいらっしゃいます。その方々の 3 人がお茶のお稽古にいらして、折に触れて、移住なさってからのご苦労をお聞きしました。最初、木を 1 本 1 本切って家を建てていった頃のことなど、目に見えるように話され、あるご主人の「うちの奥さんも 70kg もの荷を担いだものです」とのお話に、びっくりしました。また、後年、日本に出嫁ぎに行つてなされた大変なお仕事のことをお聞きした時は、私は何も知らずに過ぎてきたのだとつくづく思い知らされました。そのご苦労を乗り越えて、今は豊かに暮らしている方々が、「若い時日本でお稽古したお茶をまたできてうれしい、パラグアイでは絶対できないとあきらめていました」とおっしゃって下さった時は、私も心からうれしく思いました。

今回は日本料理のことに触れるスペースがありませんが、食べることは人間にとって不可欠なことから、日本料理に興味を持っている人は多く、茶道と違って、一般に普及しやすいと思います。欲を言いますと、日本の子どもの伝承遊びを、パラグアイの子どもたちにもっとたくさん伝え、遊びたかったと思っています。

赴任前の私にとって、茶道も日本料理もごくあたりまえのことでした。しかし、パラグアイの人たちの日本文化に対する強い関心を知り、2 年間指導したことにより、改めてその良さを再見することになりました。今私は、この日本で茶道を教え、また勉強することに、以前よりも意欲的です。

パラグアイ地図



Ⅲ. パラグアイにおける

## JICA ボランティア派遣事業

## JICA ボランティア派遣事業の沿革

|       |     |                       |
|-------|-----|-----------------------|
| 1978年 | 2月  | 青年海外協力隊派遣の取極め成立       |
| 1986年 | 4月  | 日系青年ボランティア派遣開始        |
| 1991年 | 11月 | 日系シニアボランティア派遣開始       |
| 1992年 | 1月  | シニア海外ボランティア派遣開始       |
| 1995年 | 4月  | 青年海外協力隊員 500 名派遣突破    |
| 2008年 | 9月  | JICA ボランティア 30 周年記念行事 |
| 2009年 | 3月  | ボランティア派遣総数 1334 名     |

## 事業実施方針

ボランティアの特性を生かしつつ、全 JICA の援助スキルの一つとして、技術協力プロジェクト、無償資金協力、有償資金協力、研修事業等と整合性を持たせた派遣計画に基づき、パラグアイ国の国づくり・人づくりに貢献し、国際性豊かな我が国青年を醸成し、経済協力のみならぬ人的交流をとおしたパラグアイー日本の二国間の揺ぎ無い関係強化に資する事業として行く。

然るに、パラグアイに於ける援助重点分野

- (1) 貧困対策
- (2) 持続的経済開発
- (3) ガバナンス

に沿った派遣計画を模索する。

## ボランティア派遣事業実績

2008 年末時点で、パラグアイへの派遣は、青年海外協力隊員 (72 名)、シニア海外ボランティア (27 名)、日系社会青年ボランティア (10 名)、日系社会シニアボランティア (4 名) の 4 つの派遣形態が有り、総勢 113 名が活動中である。派遣分野は、右のとおり。

### 青年海外協力隊

|      |      |
|------|------|
| 農林水産 | 24 名 |
| 保健衛生 | 21 名 |
| 教育文化 | 27 名 |
| 計    | 72 名 |

### シニア海外ボランティア

|      |      |
|------|------|
| 農林水産 | 8 名  |
| 保守操作 | 7 名  |
| 土木建築 | 2 名  |
| 保健衛生 | 3 名  |
| 教育文化 | 6 名  |
| その他  | 1 名  |
| 計    | 27 名 |

### 日系社会青年ボランティア

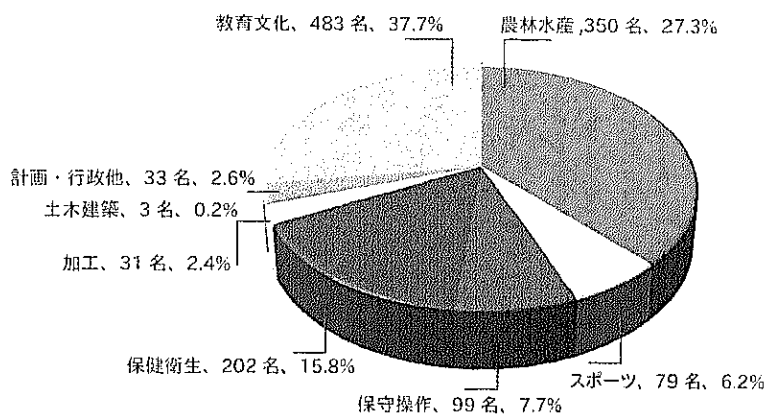
|       |      |
|-------|------|
| 日本語教育 | 6 名  |
| 高齢者福祉 | 4 名  |
| 計     | 10 名 |

### 日系社会シニアボランティア

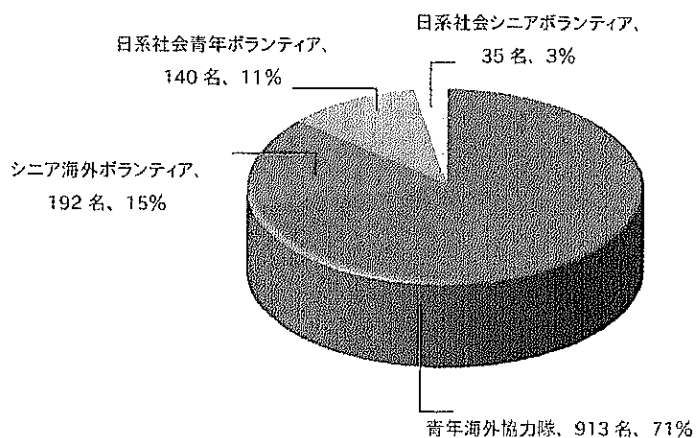
|       |     |
|-------|-----|
| 土木建築  | 1 名 |
| 高齢者福祉 | 1 名 |
| 日本語教育 | 2 名 |
| 計     | 4 名 |

2008 年度末派遣現状

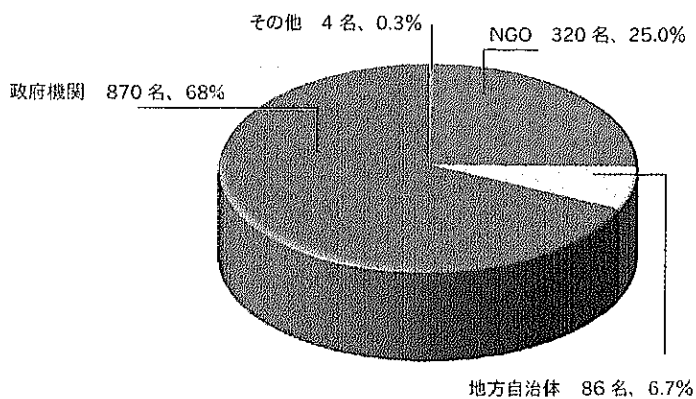
### 分野別ボランティア派遣実績



### ボランティア種別派遣実績



### 配属先別派遣人数

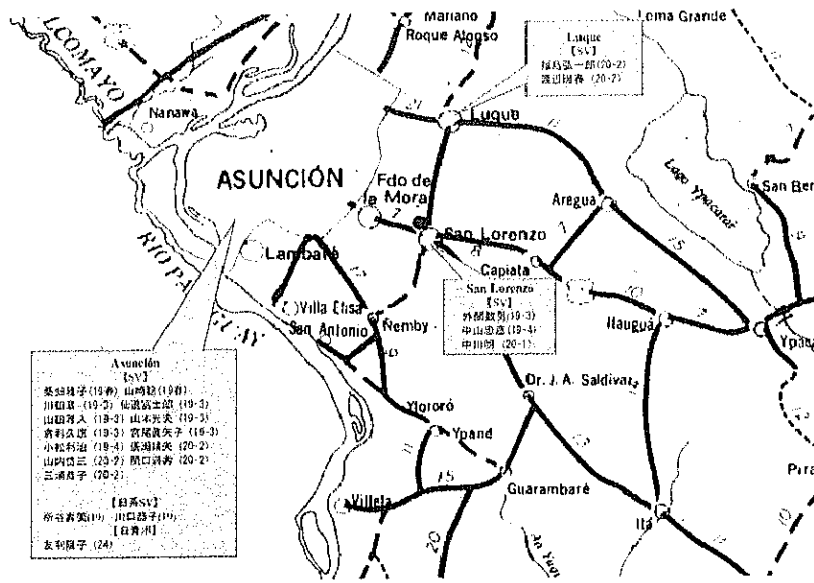


2008年度末

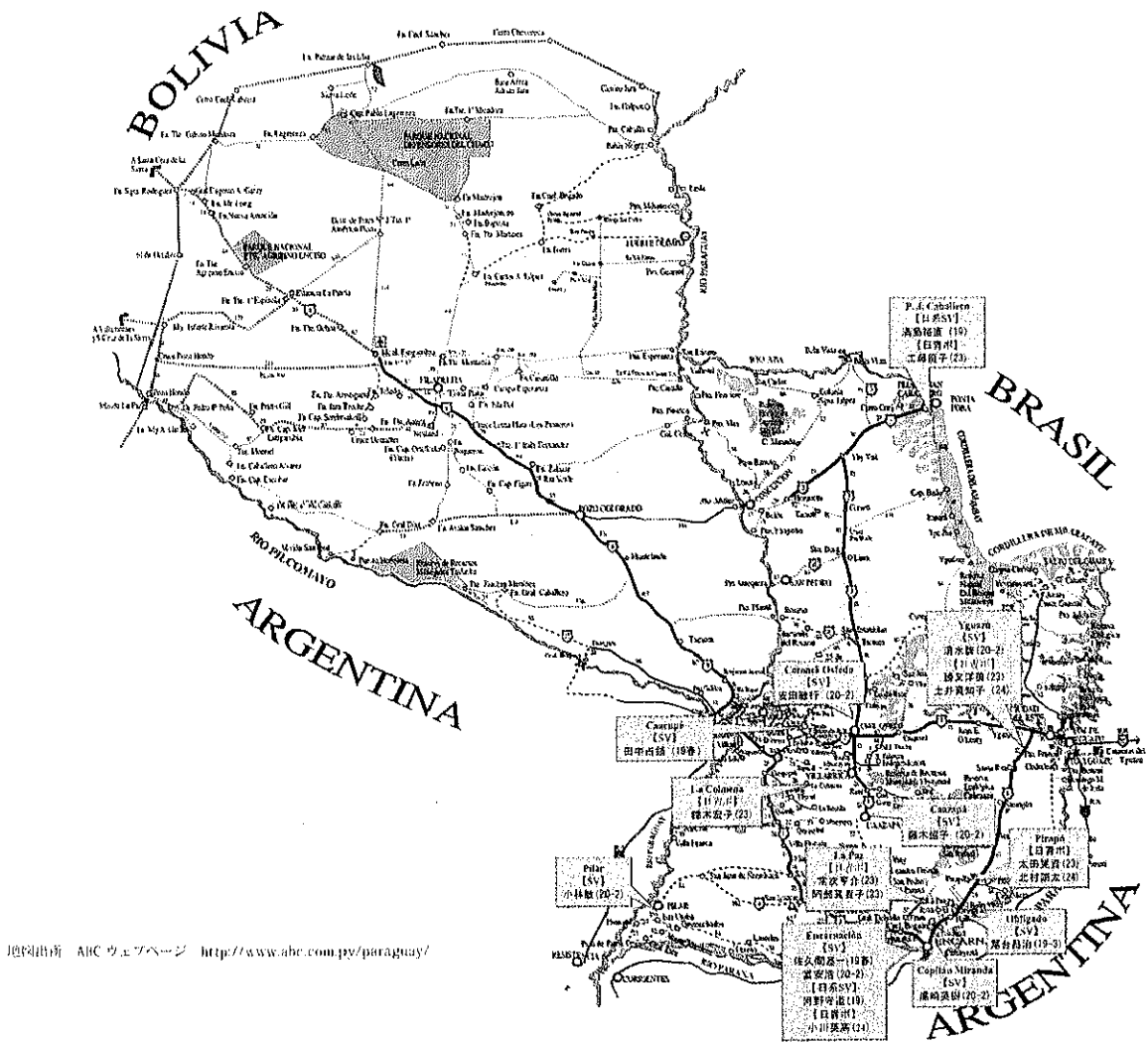
# シニア海外、日系社会シニア、日系社会青年ボランティア配置図

平成 20 年 12 月 31 日現在

アスンシオン近郊拡大図



地図出典：Dirección del Servicio Geográfico Militar

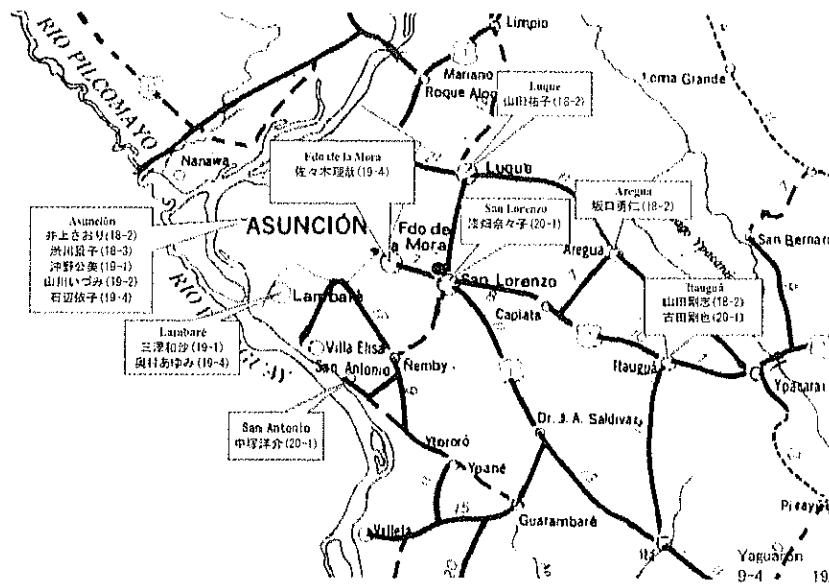


地図出典：ABC ウェブページ <http://www.abc.com.py/paraguay/>

# パラグアイ共和国青年海外協力隊員配置図

平成 20 年 12 月 31 日現在

アスンシオン近郊拡大図



## 青年海外協力隊員

|                  |      |      |        |
|------------------|------|------|--------|
| Concepción       | 1-1  | 19/1 | 坂口 良介  |
|                  | 1-1  | 19/2 | 松本 洋輔  |
| San Estanislao   |      |      |        |
| Gral.Aquino      | 2-1  | 18/3 | 武藤 規正  |
|                  | 2-2  | 19/2 | 細萱 彰   |
| Caacupe          |      |      |        |
|                  | 3-1  | 18/2 | 前田 聖悟  |
|                  | 3-1  | 19/1 | 伊藤 望   |
|                  | 3-1  | 20/1 | 森 桂    |
| Emboscada        |      |      |        |
|                  | 3-2  | 18/3 | 横山 葉子  |
|                  | 3-2  | 19/4 | 矢野 順子  |
| Tobati           |      |      |        |
|                  | 3-3  | 19/1 | 山本 豊   |
|                  | 3-3  | 19/3 | 篠崎 朗育  |
| San Bernardino   |      |      |        |
|                  | 3-4  | 19/1 | 宇佐美 陽子 |
| Caragatay        |      |      |        |
|                  | 3-5  | 19/3 | 越 亮輔   |
| Atyra            |      |      |        |
|                  | 3-6  | 20/2 | 瀬戸 寛   |
| Villa Rica       |      |      |        |
|                  | 4-1  | 20/1 | 畔田 政和  |
| Cnel.Oviedo      |      |      |        |
|                  | 5-1  | 18/3 | 佐藤 真奈美 |
|                  | 5-1  | 19/1 | 田村 元美  |
| San Joaquín      |      |      |        |
|                  | 5-3  | 19/2 | 小谷 博光  |
| J.M.Frutos       |      |      |        |
|                  | 5-4  | 18/3 | 楢田 祐輔  |
| Itacuruby        |      |      |        |
|                  | 5-5  | 19/1 | 稲垣 啓子  |
| San Jose         |      |      |        |
|                  | 5-6  | 19/3 | 辻 雅子   |
| S.J.Nepomuceno   |      |      |        |
|                  | 6-2  | 18/2 | 上田 理恵  |
|                  | 6-2  | 18/2 | 下岡 直子  |
|                  | 6-2  | 18/3 | 山本 衛   |
| Caazapa          |      |      |        |
|                  | 6-1  | 18/2 | 佐藤 杏子  |
| Buena Vista      |      |      |        |
|                  | 6-3  | 19/2 | 佐野 斉子  |
| Encarnacion      |      |      |        |
|                  | 7-2  | 19/2 | 寺沢 紗良  |
|                  | 7-2  | 19/2 | 藤木 佳奈  |
|                  | 7-2  | 19/4 | 中村 由梨子 |
| Piarapo          |      |      |        |
|                  | 7-3  | 18/2 | 佐藤 武仁  |
| S.Cosmo y Damian |      |      |        |
|                  | 7-4  | 19/1 | 西中 友季子 |
| Mayor Otaño      |      |      |        |
|                  | 7-5  | 19/2 | 野末 拓志  |
| Itapua Potu      |      |      |        |
|                  | 7-6  | 19/2 | 奥田 ひと美 |
|                  | 7-6  | 19/4 | 稲毛 美紀子 |
| BellaVista       |      |      |        |
|                  | 7-7  | 19/3 | 木村 友治  |
| M.Auxiliadora    |      |      |        |
|                  | 7-8  | 19/3 | 森田 望   |
| Obligado         |      |      |        |
|                  | 7-9  | 20/1 | 柴野 瑞香  |
| Fram             |      |      |        |
|                  | 7-10 | 20/1 | 山越 健一  |
| Cnel.Bogado      |      |      |        |
|                  | 7-11 | 20/2 | 池ノ上 竹美 |
| Capitan Miranda  |      |      |        |
|                  | 7-12 | 20/2 | 乗松 小百合 |
| S.J.Bautista     |      |      |        |
|                  | 8-1  | 19/4 | 小池 裕子  |
| La Colmena       |      |      |        |
|                  | 9-1  | 18/3 | 渡辺 隆晴  |
| Paraguari        |      |      |        |
|                  | 9-2  | 18/3 | 力丸 麻子  |
| Carapegua        |      |      |        |
|                  | 9-3  | 19/1 | 中村 昌子  |

地図出所: Dirección del Servicio Geográfico Militar



地図出所: ABC ウェブページ <http://www.abc.com.py/paraguay/>



### 「地域保健医療の改善」

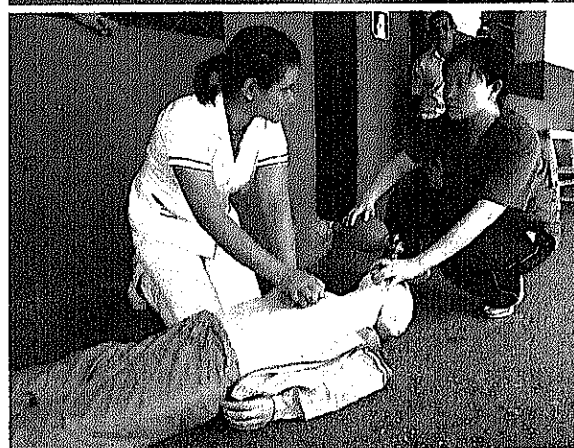
地方における保健医療行政が未熟であるとともに、医療従事者の知識不足、インフラ・医薬品不足が存在していることに加え、貧困層にとって医療費を負担することが困難であることも関連し、MDGsに掲げられている「乳幼児死亡率の減少」と「妊産婦の健康の改善（妊産婦死亡率の減少）」は停滞傾向にある。

こうした背景を踏まえ、同プログラムは「乳幼児死亡率の改善」と「妊産婦死亡率の改善」を目指しているが、上記問題点がより深刻な地方部の医療現場に対してJOCV（看護師・助産師・保健師）を戦略的に配置し、地域保健医療の改善を目指し、医療従事者の知識向上や医療機関利用者に対するサービスの質の向上を支援している。

南部4県を対象とした技術協力プロジェクト「南部看護・助産師継続教育強化」の終了後（平成18年）、国立看護・助産継続教育センター（厚生省）を中心に、パラグアイ政府側でも継続して人材育成に取り組んでいるが、同プロジェクトの対象県だった地域を中心に隊員の派遣を行い、これら取り組みを支援している。

また、平成20年から23年まで実施される予定の「看護・助産師継続教育強化」では対象地域を移して看護・助産分野の継続教育が展開されているが、このプロジェクトの対象県より3～4県を選定（現在のところ、アマンバイ県、コンセプション県、サンペドロ県）してJOCV（看護師・助産師・保健師）を派遣し、同プロジェクトが推し進める人材育成の効果を側面から支援する。

また、カナダ国際開発庁や米州保健機構が支援する母子保健に関する取り組みにおいても、他ドナーと協議の上でJOCVが現場レベルでの効果発現に一定の寄与を行っている。一方、エイズ対策や健康増進教育の分野においては、国内各地で米国平和部隊ボランティアが活動を行っているが、情報や資源の共有において適宜事務所から支援を行い、相乗効果創出のためのバックアップを行う。



## 「小農自立化支援」

同プログラムでは、開発調査・技プロ・ボランティア等の投入を組み合わせ、「人間の安全保障」の観点に立った、裨益者に直接届く支援を実現することにより小農の生計向上・生活改善に繋げることを目標としている。こうした目標を実現するため、農村地域の現場で働くボランティアは非常に重要な投入と位置づけられ、プロジェクト等による波及効果の拡大のみならず、異職種ボランティアの組み合わせによる総合コミュニティ開発（現在事務所で導入を検討中のアプローチ）の実現にも必要不可欠な投入である。

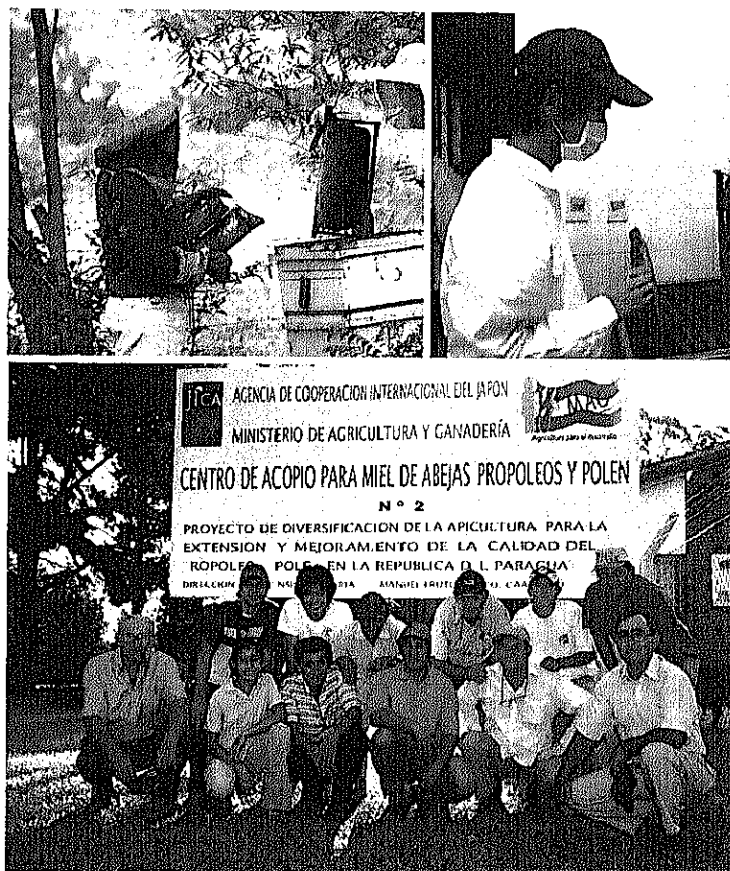
農業・畜産・水産分野、コミュニティ開発分野のボランティアについては現在、フィールド調整員（FC）が同分野ボランティアの活動の効果・効率性を向上させ、複数スキームを組み合わせることで相乗効果を発現させるために、業務指導や他スキーム・他機関との連携調整を行っている。さらに、当該分野における優良な案件の形成、コミュニティ開発分野におけるボランティアの派遣戦略策定支援も行っている。

農牧省農業普及局や農業教育局等、関連する中枢の組織にはシニアボランティアを派遣する。

今後、ボランティア派遣は以下の3項目の連携を中心に行っていく。

① 現在、同プログラム内で実施中の技術プロジェクトとの連携派遣：現在実施中の「南東部小規模農協強化計画」プロジェクトとの連携を前提とした隊員を、各対象小農協に要請中。（現在、村落開発普及員等5名が派遣中）。また、2008年3月に終了した「養蜂業多様化支援」プロジェクトにおいては、フォローアップとして現在、養蜂、村落開発普及員計3名を派遣中。

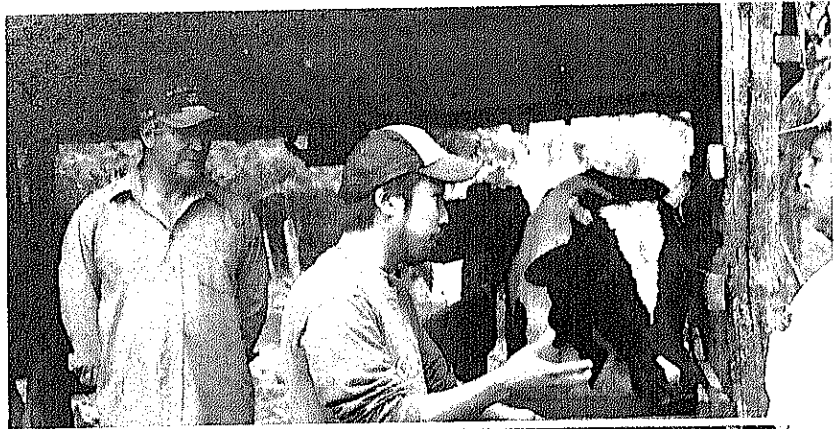
② 協力が小農に直接届く方法として、事務所で導入中の「総合コミュニティ開発」的アプローチの実現にも、同地域に異職種ボランティアを組み合わせる。現在、実施中の開発調査「小農のための総合的農村開発計画」の調査結果



で選定される重点エリア（南東部4～6県の予定）内に、コミュニティ開発事業を推進するパイロット地域として、「総合コミュニティ開発」というマルチセクターアプローチを実現するにあたり、コミュニティの現場において活動をするJOCV（農牧業、地域保健、基礎教育、村落開発等）の派遣を計画していく。重点エリアが選定されるまでの間は、同一地域に配置された複数の異職種ボランティアの連携を進めていき、これを今後本格的に実践するコミュニティ開発アプローチの実証として位置づける。

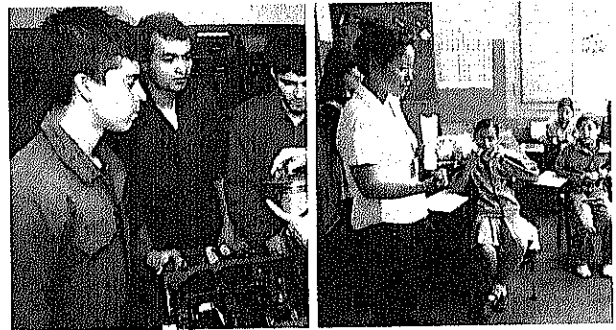
③ 日系社会をパラグアイ小農支援の開発パートナーと位置づけ、日系移住地で複数のボランティアを派遣し、日系社会と連携しての小農支援を行う。（現在、野菜・家政隊員2名派遣中）

④ フォスタープラン（NGO）と連携した養蜂技術普及・販路拡大活動を維持・促進する。また、他のボランティア派遣国際機関（ピースコープ、KOICA）とは、ボランティア事業における相互補完・連携を促進し、現場レベルでの相乗効果を図る。



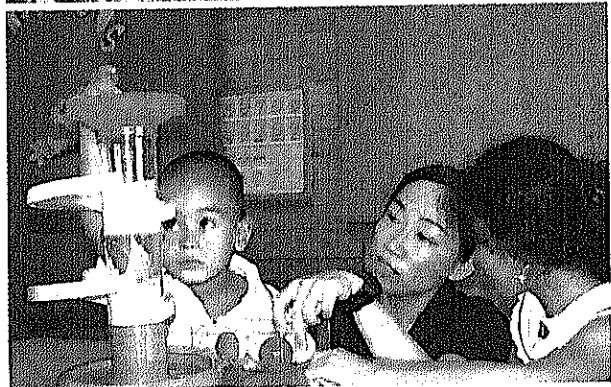
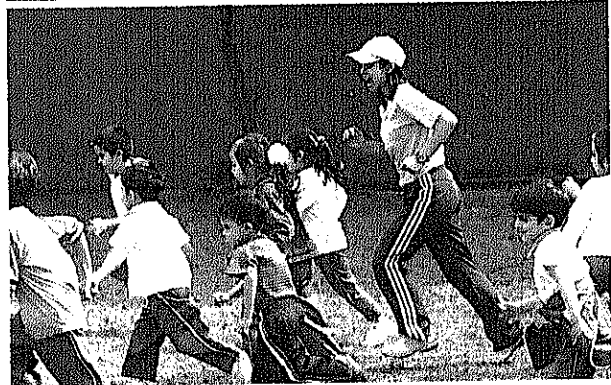
### 「基礎教育拡充」

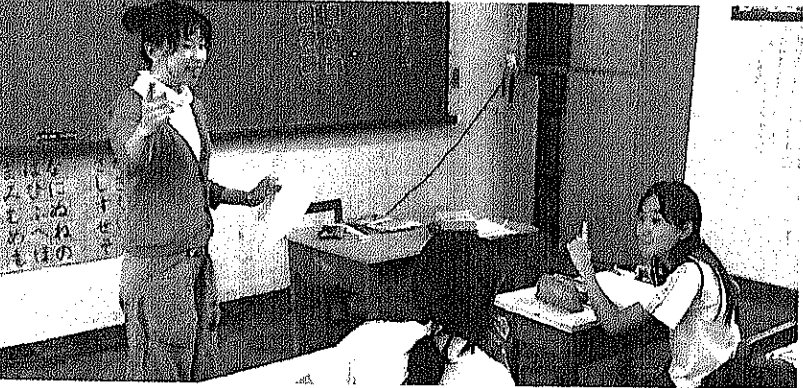
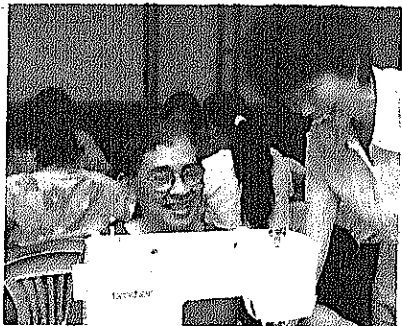
セントラル・コルディジェラ県を中心に学校管理者の能力の向上を図っているが、それに合わせて基礎教育校へ JOCV を集中的に投入することで現場レベルでの改善を図り相乗効果を上げる取り組みを、引き続き実践していく事とする。特殊教育分野については 20 年度から開始する技プロ「早期療育プロジェクト（日本チリパートナーシップ、JCPP）」に合わせ、オビエド市を始めとして今後プロジェクトの中心となる現場へ理学療法士の JOCV を投入し、リハビリテーション分野での活動を通じてプロジェクトとの連携を図っていく予定。



### 「産業振興」

パラグアイ国の産業振興に関しては、これまで職業訓練プロジェクト（職業訓練局、職訓センター）や電気通信プロジェクトを通じて、専門分野の技術者の技術向上を図ってきたが、主にボランティアはプロジェクトの成果を継承し、自立発展性を支援することを目的として投入されてきた。今後は、基礎的な産業技術分野へはパラグアイの人材を適用させ、より高度な先進技術を指導するためにシニアボランティアを、高等教育機関や職業訓練機関へ派遣することとする。





## 「マルチセクトラルな取組み」

当事務所では、当国貧困層の大半を占める小農の生活向上・生活改善を目的とし、マルチセクトラルなアプローチ「総合コミュニティ開発」を導入している。これは、小農の多様化したニーズに応えるため、同一地域に異職種のボランティア（農業・畜産・水産、保健医療、基礎教育、村落開発等）を複数配置し、さらに技プロ等他のスキームとも連携しながら、コミュニティ全体の発展を図ろうというものである。さらに、こうした取り組みに関わるボランティアの連携調整をすべく、農業分野のフィールド調整員をH19年度から派遣している。

## 「日系社会との関わり」

当国には約7000人の日系人が居住しており、各地域に日本人会、農業協同組合が組織されている。当事務所としては、これら日系人を開発のパートナーと位置づけ、共に開発途上国であるパラグアイへの支援を行っていききたい。従って、今後なお一層日系移住地の市役所や日系農業協同組合等への一般ボランティアの派遣を促進させていくと共に、日系社会の抱える問題点に適切に対応していくためにボランティア事業の柔軟な適用を図る。

(1) 日本語教育：日系社会ボランティアの派遣を通じた移住地内の国語・日本語教育の実践と併せ、JOCVの派遣を通じ引き続きパラグアイ人への日本語普及に取り組むと共に、当国教育文化省カリキュラム局等へのシニアボランティア派遣を通じ公的機関への日本語教育の導入を実現させる。現在派遣されているのはJOCV2名、日青ボ4名。今後の派遣予定はJOCV2名、日青ボ4名、日系社会シニアボランティア1名。

(2) 高齢者福祉：日系社会の高齢化に伴いニーズが高く、クローズアップされている分野で今後日系社会支援の中心的な分野となっていく。現在派遣されているボランティアは、日青ボ4名、日系シニアボランティア1名である。



## 30 aniversario del envío de voluntarios de la JICA al Paraguay



*“ 30 años contribuyendo al futuro del Paraguay ”*  
Voluntarios de la JICA

### **Ceremonia Oficial**

**Jueves 25. Set. 2008**

**9:00 – 11:00**

**Centro Paraguayo Japonés**

**Sala de teatro**

### **Evento**

**Sábado 27. Set. 2008**

**10:00 – 17:00**

**Mariscal López Shopping**

**Estacionamiento Planta Baja**

**Actividades de los voluntarios**

**A partir de las 15:00**

**Patio de comidas**

**Presentaciones musicales**

Organizado por Agencia de Cooperación Internacional del Japón (JICA)

IV. ボランティア派遣

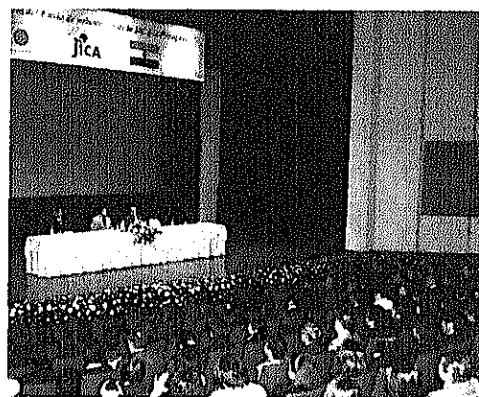
## 30周年記念式典・イベント

## ボランティア派遣 30周年記念行事プログラム

### 30周年記念式典

#### 式次第

- 08時30分 一般受付開始
- 09時13分 記念式典開始
- 09時15分 パラグアイ・日本両国国歌の斉唱
- 09時20分 桜井英充 JICA 所長のご挨拶
- 09時25分 渡部和男日本大使のご挨拶
- 09時30分 フランコ副大統領のご挨拶
- 09時40分 JICA 理事長賞授与
- 09時50分 アスンシオン市議会副議長のご挨拶
- 09時55分 広報DVD上映
- 10時15分 緒方貞子理事長メッセージ紹介
- 10時25分 イグアス地域同好会による和太鼓演奏
- 10時55分 JICA ボランティア事業の紹介
- 11時10分 JICA ボランティア活動紹介 (渡部隆靖隊員)
- 11時20分 KOICA 活動紹介
- 11時35分 CUERPO DE PAZ 活動紹介
- 12時45分 ボランティアによる閉会の言葉
- 12時50分 閉会
- 11時50分 中庭にて懇親会
- 12時40分 懇親会終了



日時：2008年9月25日（木）

午前9時～12時

会場：日本パラグアイ人造りセンター

参加者：約600名

### 30周年記念イベント

#### 日程

- 06時00分～ 会場にて準備開始
- 09時00分 イベント開始（農業、教育、保健医療、JICA 広報など18のブース）
- 15時00分 ステージ開催（ボランティアのバンドグループ、服飾隊員によるファッションショーなど）
- 17時00分 イベント、ステージ終了
- 19時00分 会場にて片付け終了



日時：2008年9月27日（土）ブース展示

午前9時より午後5時まで

会場：ショッピングマリスカルロベス駐車場及び3階フードコート常設ステージ

参加者：大勢の買い物客（数は未確認）及び JICA・大使館関係者（約150名）

## 記念式典へのメッセージ

フランコ副大統領閣下、各国大使閣下、パラグアイ政府関係者の皆様、日系社会の皆様、国際機関代表者の皆様、すべてのパラグアイ国民の皆様

本日はご多忙の折、ボランティア派遣 30 周年記念式典にご臨席を賜り、心から感謝を申し上げます。本式典の開催に当たりまして、JICA 理事長としてご挨拶申し上げます。

日本とパラグアイ国との関係は、1959 年に発電分野の技術研修員を本邦に受け入れたことを契機に、わが国は今日まで半世紀にわたり経済技術協力を行ってきました。併せて 1959 年の移住協定締結以来、7000 人を超える移住者を日本から送出し、ラパス、ピラポ、イグアス移住地などの開拓とともに移住者の定着を支援してきました。過去 50 年間の JICA の協力は累計で 770 億円にのぼり、中南米 33 カ国のなかでトップクラスです。協力の重点としては、今日パラグアイ政府が貧困削減やガバナンス分野を重視していることを踏まえ、人々と地域社会の保護と能力強化を支援する「人間の安全保障」の観点から、「小農自立化支援」「地場産業振興」「基礎教育の拡充」「保健医療サービスの向上」といった課題に取り組んでいます。

なかでも、草の根レベルでの協働を特徴とするボランティア事業では、1978 年に 3 名の青年海外協力隊員を派遣して以来約 1,300 名を派遣して参りました。現在 100 名を超えるボランティアが、保健医療、教育、農村開発等の分野で、地域の人々と共に活動しています。こうした実績を積み上げることができたのはパラグアイ国民及び関係者からの評価と深い理解のお陰であり、改めてお礼を申し上げる次第です。

私は、昨年 4 月末に初めてパラグアイを訪問しました。政府要人との会談を通じ、パラグアイ政府の日本との関係を重視し、より一層の関係強化を図りたいとの熱意と期待を強く感じました。また、プロジェクトサイト及びボランティアの活動現場への訪問を通じて、今後のパラグアイ社会の飛躍的な発展の可能性を十分に感じることができました。さらに、日本人移住者や日系人の方々が、日本人としての文化・伝統を重んじながら、パラグアイ人として生きていく強い覚悟とこれまでの努力に感銘を受けました。

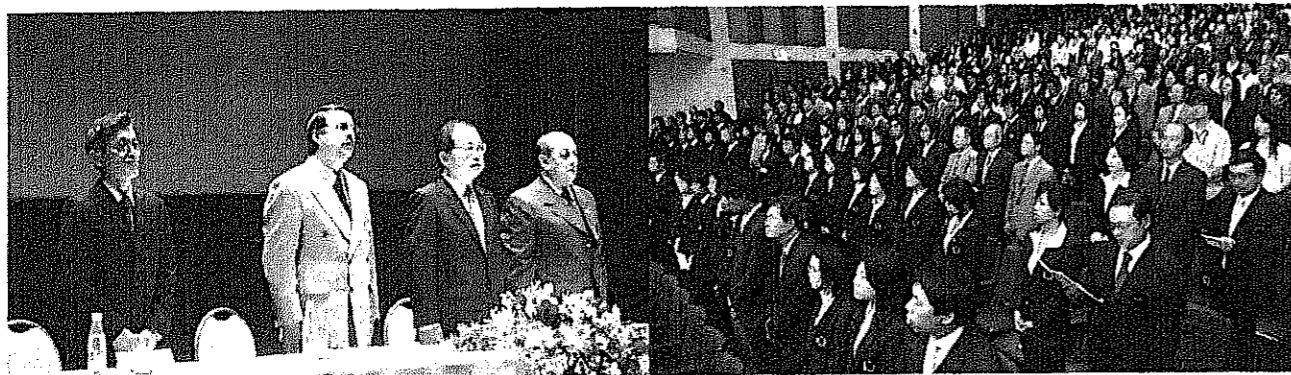
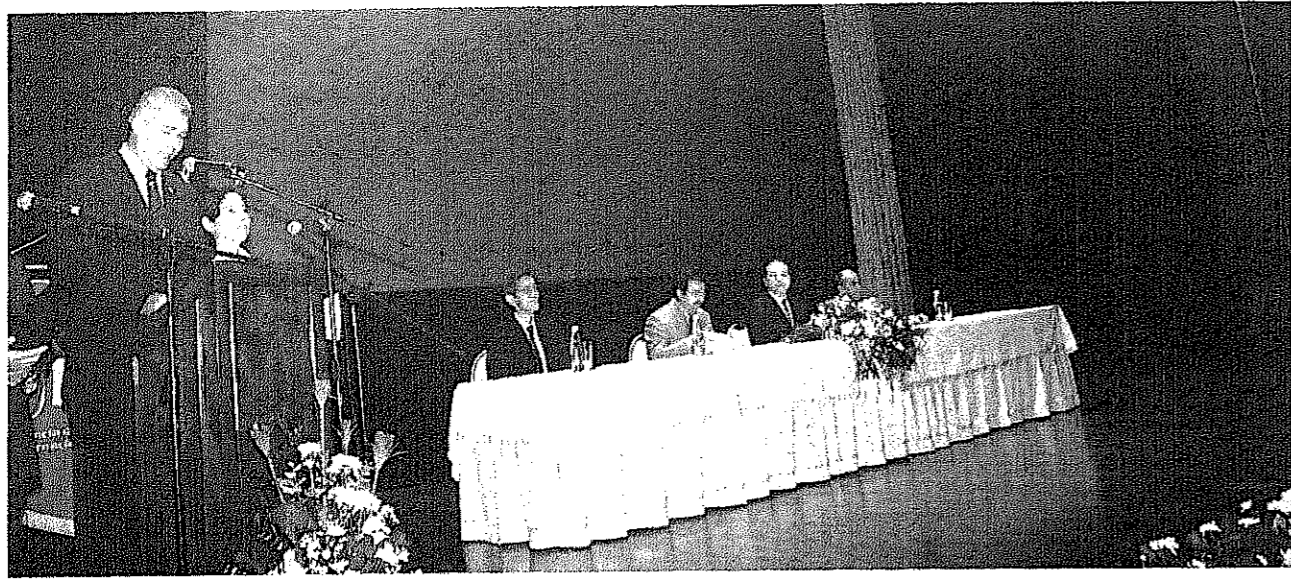
来る 10 月 1 日に JICA はこれまでの技術協力に加え、資金協力も担当する「新 JICA」に生まれ変わりますが、従来の技術協力に加えて資金協力も一体的に統合を図り、パラグアイ国の抱える開発課題に対して一層効果的な協力を行う所存ですので、今後も関係者の皆様のご理解とご支援を心からお願いする次第です。

なお、JICA ボランティアの事業実施に際しては米平和部隊や、KOICA とも良好な関係が構築されていると承知しており、本記念式典を機に協力関係が益々強化されることを期待しています。

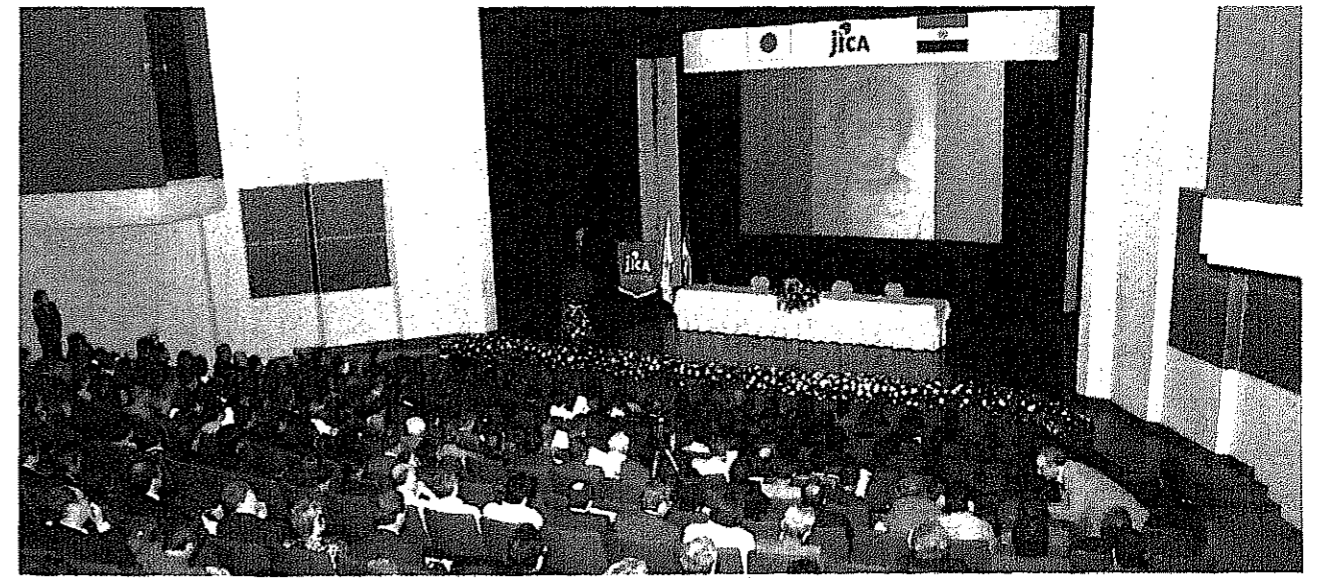
最後に、パラグアイ関係者の皆様の JICA 事業への益々のご理解とご支援をお願いすると共に、パラグアイの発展のため、ボランティアの皆さんの更なる充実した活動を祈念して私の 30 周年記念式典に向けたメッセージとさせていただきます。

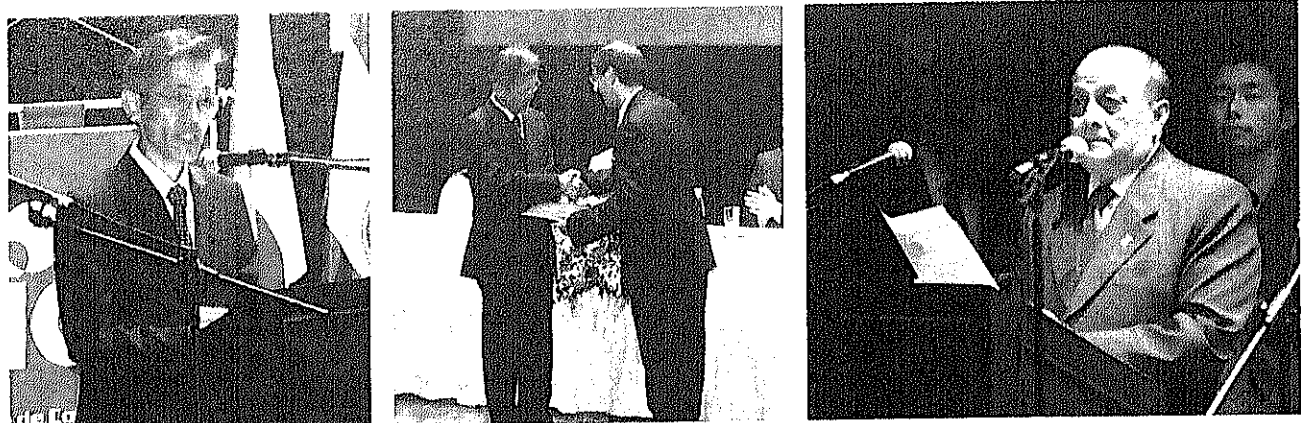
独立行政法人国際協力機構 理事長  
緒方 貞子





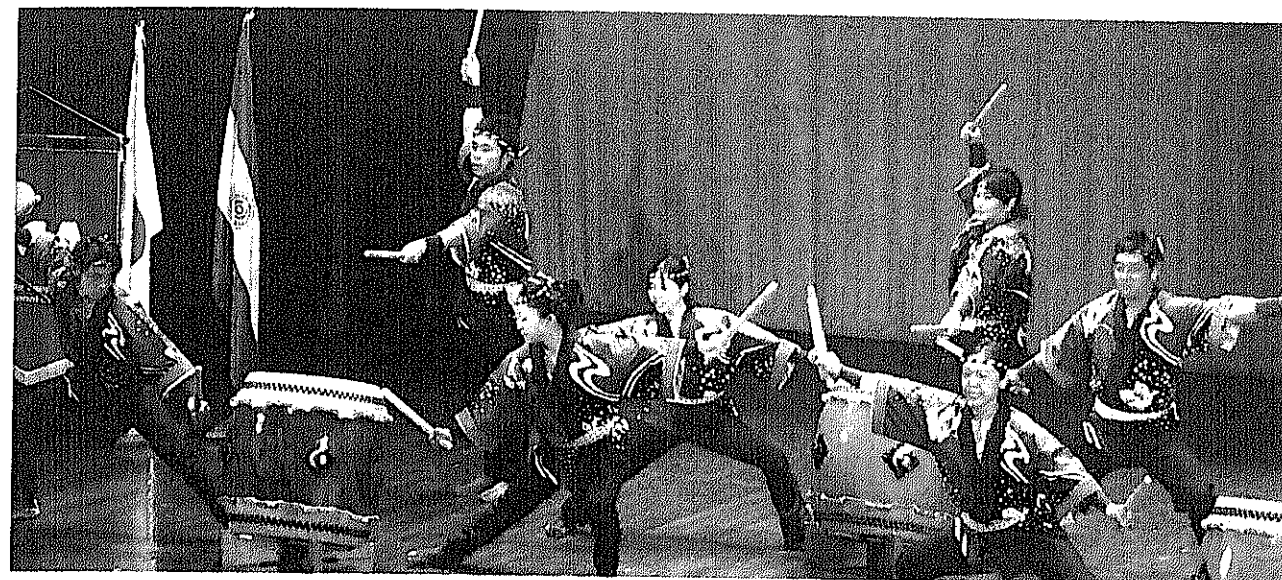
# JICA ボランティア派遣 30 周年記念式典





1978年に青年海外協力隊員がパラグアイに初めて派遣されて以来30年が経過した。2008年9月25日に30周年記念式典が盛大に開催された。式典は、パラグアイ日本人造りセンターで開催され、政府関係者や国際機関、国会議員、県知事、市長そして日系団体の長など約600人が参加し立ち見が生じる大盛況となった。

ボランティア活動紹介では、岩谷寛次長より、30年間の成果や逸話を楽しく紹介し、併せて1986年に殉職された駒形調整員への追悼を行った。続いて渡部隆靖隊員（18年度3次隊）が小学校教諭・理科としての活動を現場の視点から率直に発表した。



また、式典ではKOICA、及びピースコープによる友情出演もあり、日米韓のボランティア事業がそれぞれの特色を持って、パラグアイ国民の生活向上支援に貢献していることが観客に伝えられた。

